

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（平成27年度）

経営協議会の学外委員からの意見	本学の取組状況
<p>◎第3期中期目標・中期計画（第三次案）について</p> <p>3分類の卓越した教育研究に関して、千葉大学は、学生一人一人に対して的確な指導を行い、付加価値を付けて学問分野あるいは職業分野の担い手としての研究者を育成する全国一の教育環境を作るという内容があれば、それがビジョンとなるので、計画に含めていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">（平成27年5月21日 経営協議会）</p>	<p>中期計画の策定にあたり、計画 No10 に「次世代型人材を育成する全学的なマネジメント体制の構築」、計画 No41 に「学長主導の重点研究分野強化システム及び次世代イノベーション育成システムの整備」として3分類の卓越した教育研究の体制について明記するとともに、計画12及び52に「SULA（Super University Learning Administrator）の配置・育成」について明記した。</p>
<p>◎平成28年度概算要求について</p> <p>1年間に取れる単位数の検討、ナンバリングの完全実施やGPAも世界に通用するレベルにしていく必要があるため、この3群を選択した機会を活かして、カリキュラム改革をしていくことが必要だと思う。</p> <p style="text-align: right;">（平成27年9月17日 経営協議会）</p>	<p>教育改革の一環として、平成28年度から、ターム制（6ターム制）を全学的に導入することにした。</p> <p>ターム制を導入することにより、1ターム（8週間）完結の科目設定を可能にするなど、教育の質的改善を図るとともに、ギャップタームを創出し、留学、インターンシップやボランティア等、学生の多様な社会体験の機会を確保し、自主的で主体的な学びを促すことを目指している。</p> <p>また、平成28年度からの全学的な導入に先立ち、「千葉大学におけるターム制の導入等に関する方針」を策定し、学外に公表している。</p>

◎第3期中期目標期間における教員人事計画
(案)について

大学の方向性が職員全員にわかるような形で明示し、全員で一緒に改革に取り組んでもらいたいという一体感を生み出すやり方をし、ということが実現できれば人事院勧告に追いつくことができるかを共有できれば、かなり説得力があるのではないか。

(平成28年1月21日 経営協議会)

学長の強いリーダーシップの下、学内資源の再配分による経営力の強化及び本学の強み・特色を生かした機能強化を一層進めていくため、教員の重点再配置や多様な教員配置を示した「第3期中期目標期間における教員人事計画」を平成28年1月に策定した。